

令和元年最後の月に思いをこめて

児童施設 施設長 岡野美智子

思います。

保護者の皆様、後援会の皆様、各機関の皆様には様々な協力をいただきました。御礼申し上げます。新しい令和元年も終わろうとしています。新しい新たな気持ちで来年も子供たちの成長を育みながら、職員一同力を合わせて養育に取り組んでいく所存です。最後になりましたが、新しい年、皆様にとって良いお年になりますよう祈念申し上げます。

今年も残すところ後わずかです。最近まで、美しく色づいた紅葉や银杏が道をうめつくしていました。あわただしい今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

残念なことは、安井さんと久松さんが代表に選ばれた第19回全国障害者スポーツ大会が中止となつてしまった事でした。

今日、私は宿直の業務をいたしております。子供たちの寝顔が、すやすやとかわいらしい穏やかな顔をしているのを見て安心しました。

現在児童施設は40名在園しており、26名が通学児で、未就学児が2名、学校卒業生12名という構成になっております。入所理由は各自違いがありますが、入所してからの生活を通して、学んでいることが多いと思えます。家ではできないかったという事、やらせられなかった体験を仲間とともに助け合いながら行い、感じる心を育みながら成長しています。

7月から開所いたしました児童発達支援事業「すたーと」の利用者の小さい姿を見る機会があることも学期の子供たちの自覚、認識につながっているように思います。障害者支援

つくほうだより

今年を振り返りますと台風も立て続けにきて大変でした。台風19号の時は児童施設、グループホーム平沢の利用者でつくば特別支援学校に一時避難をしました。幸い、被害もなく済みました。7月29日に、つくば市役所、消防署、警察署、つくば特別支援学校の先生方の協力を得て、避難先をつくば特別支援学校とした土砂災害を想定した避難訓練を行っていました。テレビ局の取材もありました。その後の避難でしたのでスムーズに行うことができたが、体験してみても体育館での就寝はかなり厳しいものがあると思えました。大きな被害を受けた地域もあり本当に被害の怖さを感じるとともに、災害や緊急時の対応等の強化を感じました。

センター未来の利用者さんの働く姿にも影響を受けています。機能の異なる事業所がある利点かと思えます。皆で協力して取り組む運動会や収穫祭だけではなく、今年度の児童施設は小人数での外出を行っています。アンパンマンショーの観劇は台風で中止になってしまいましたが、県西公園、洞峰公園、水族館、買い物、外食、カラオケ、ボーリング等へ行きました。年度末までには、作業班の利用者での外出を計画しております。個々の要求を実現することで満足が得られることは大事で生きる喜びにつながります。

現在はクリスマスが楽しみで、サンタがプレゼントを届けてくれるのを待っています。その後はもちつき、新年になつたら初詣と行事が続きます。2月29日(土)にはつくばカピオホールでチャレンジアートフェスティバルがあります。児童施設は創作劇で参加します。ぜひ、ご覧いただければと

つくほうだより

新たな収穫の多い年となりました

障害者支援センター未来センター長 松島寿樹

初冬の候、保護者、関係者の皆様におかれましてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は大変お世話になっております。つい先日まで汗をかきながら、自然の中で活動していたような気がしますが、

出し合って年々少しずつではありませんが、質・量ともに向上しています。つくほうの森開拓班は長年放置されていた耕作放棄地を再生し、にんじくや落花生を作れるまでの畑になりました。落花生は牛久市の落花生農家さんにレクチャーを受け、植え付けから管理、収穫、焙煎まで丁寧に教えていただき、この秋「つくピー」として華々しくデビューしました。学園敷地内の畑で活動する班は、もち

ました。時には自分たちで考え、時には専門の方にレクチャーを受け、試行錯誤の日々ですが、やはり収穫の時期に利用者職員ともに格別の喜びです。支援する側の職員の業務はもちろん障害者支援となるわけですが、利用者・職員ともに同じ筑峯学園に関わる人間として立場関係なく、自然に恵まれた環境で、健康に笑顔の多い日々過ごすことができればと管理者として強く望んでいます。つくほう米、野菜類など販売も致しますので、施設にお越しの際には是非事前にお問い合わせの上、お求めいただければと思います。

障害者支援センター未来でも、今年も稲刈りや野菜、原木しいたけなどの田畑のわくわくする収穫はもちろん、スポーツレクリエーション、収穫祭、忘年会外出と一年の中でも楽しいイベントが盛りだくさんの時期で、詳細はそれぞれのコラムに目を通していただくとして、それぞれ楽しい時間を過ごすことができました。

各作業班の畑での活動や生産物も利用者・職員が知恵と工夫と力を

苗も植え、収穫ができるまでになりました。この秋には小豆をたくさん収穫できました。今シーズンはもち麦の作付面積を増やしました。地域の畑の管理を請け負っている班ではタマネギ、ネギの生産に力を入れ、年々収穫できる量が増えてきました。上沢作業所で活動する班は、畑での野菜の生産に加え、柿やスモモ、ブルーベリーなどの果樹の管理、新たにピオーネの

楽しく活動していければと考えています。

最後になりましたが、今年度も様々な方の支えに甘えながら、多様な活動にチャレンジすることができましたこと、心より感謝申し上げます。新年も引き続き、社会福祉法人筑峯学園の運営へのご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

皆様、よいお年をお迎えください。

今年もいろいろありました

グループホームほつとハウス 施設長 岡野真唯

つくほうだより

寒さが厳しくなってきました。ほつとハウス平沢からは、きれいな富士山が見えます。利用者さんが障害者支援センターへ未来に行くとき、仕事を終えて帰るとき、「今日もきれいな見えるねえ」と、朝夕の楽しみになっています。実は、空気の澄んだ夜には東京スカイツリーの2段の光も見えるのですが、これは気付いていない人が多いかもしれません。

今年5月から元号が令和に変わりましたね。新たな区切りを感じて、また特別な年となりました。振り返ってみると、今年一年も良いことも悪いこともたくさんありました。初めての出来事と言えるのは、10月12日の夜に、台風による大雨での土砂災害の危険があり、ほつとハウス平沢の利用者と児童施設の利用児者がつくば特別支援学校に避難したことです。雨が降り続き、避難指示が出るかなと早めに入浴を済ませ、夕食も食べ、準備をして臨みましたが、やはり

不備は多くありました。事前に想定して準備できることを平時から行っていくこと、見直しをしてより良いものにしていくことの必要性を感じました。そう何度もあつては困りますが、いい経験になったと思います。翌日の朝にはほつとハウスに戻り、朝食は通常通りにほつとハウスで食べました。帰る家がちやんとあるって、幸せですね。これからも台風や地震、大雨などの自然災害はあるでしょう。備えあれば患いなし、と言いますが、備えていても何が起るか…という想定を超えることも起き得るものですから、どれだけ想像力を働かせて有事のことを考えるかが大事ですね。

良いこととしては、職員の働く意識がまとまってきたかな、と感じるところです。少数精鋭というのでしょうか、少ない人数で苦楽を共にしてきた仲間になつているな、と感じます。それぞれの得手不得手、家庭状況や健康状態、仕事の量など、互いに気を配っ

て働いている様子が見て取れます。行事にしても、企画の中で自分ができるところは…とそれぞれが力を発揮しています。今年の収穫祭の出し物も、ほつとハウスの全員がステージに上がることができました。その次には、つくば市チャレンジアートフェスティバルの舞台発表も視野に入れて職員は動いています。収穫祭以上のものをカピオのステージで！と、年明けから練習が始まる模様です。2月29日(土)が本番ですので、ぜひカピオホールでほつとハウスの利用者の姿を見ていただけたらと思います。利用者さんの外出も昨年に引き続き、種類が増えています。この11月12日には、バッテリーセンターとボウリング、近場の山登りと温泉、鉄道博物館、東京ディズニーランド、など近場から県外まで様々な行き先がありました。利用者さんのいろいろな顔を見ることができたようです。

この冬休みはどう過ごすか、とい

うことが目下の課題です。ご家庭の事情で帰省のない利用者さんが増えています。ご家族の状況を考えると、皆さんいつかは帰省がなくなるものだと思います。それが早いか遅いか、帰省以外の関わりを持つていただけるといふ違いはありますが。児童施設では、帰省のない子供たちとの外出が企画されています。グループホームでも、と行なつたこともあります。しかし、いつかは帰省がなくなるという前提に立つと、「帰省がない子の」という括りはどうなのだろう?と考えるようになりまし。利用者さんの仕事場である障害者支援センターへ未来がまとまったお休みである、冬休みや夏休みをどう過ごすのかをグループホームとして検討しています。大掃除、初詣、寝正月にならない程度の運動と…と計画されることと思います。

皆様、よいお年をお迎えください。今年もありがとうございました。

相談支援を考える ～サービス「等」利用計画～

相談支援事業所 所長 武田真浩

寒さが身に染みる季節となつてまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

前回までの「つくほうだより」では、相談支援の内容（児童編）を数回に渡つてお伝えしてきましたが、一旦お休みして、今回は相談支援について改めて考えていること、日々の支援の中で感じていること等を中心にお伝えしたいと思います。

おかげさまで年々相談支援を利用してくださる方は増えているのですが、それに比例して計画作成に追われてしまい、相談の質（＝計画作成以外の相談対応など）が確保できないことが多くなつてしまつております。現行の制度においては、相談支援にて作成するサービス等利用計画案が障害福祉サービスを利用する際の支給決定の根拠となつております。言い換えれば、サービス等利用計画案が提出されないと言つていいかもしれません。定が下りない＝利用できないことと

なつてしまうため、優先的に対応していくことになるのですが、サービス利用につなげるころまでしかできておらず、対応として不十分となつてしまつているケースが多くなつてしまつております。相談支援として関わらせていただいている方には申し訳ないかぎりですが、今後の重点課題として、現状を少しずつでも改善していけるように取り組んでいきたいと思つております。

相談支援を行なつている中で、子どもから大人まで様々な人と関わらせていただいております。それぞれの方に個々の人生があり、日々の生活があり、異なつた意向や課題があり、そういうことを少しでも良い方向に向けていけるように、改善や解消に向けていけるように支援していくことが相談支援の役割でもあります。いくつかの障害福祉サービスに結び付けるだけになつてしまう傾向があります。何かしらの障害を持つ方にとっては、

障害福祉サービスは比較的に利用しやすいものかと思われれますが、障害福祉サービスだけが利用できる社会資源ではありません。相談支援にて作成しているサービス等利用計画案にも「等」がついており、この「等」をより重要視して幅広い視野でその方の生活をより良くしていくにはどうしたらいいのか、どのような社会資源があるのか、活用していけるのかといったことを考えて相談支援を行なっていくことが必要となります。

「サービス」＋「等」＝「サービス等」とすると、「サービス」は障害福祉サービスのことで、「等」はサービス以外のあらゆる社会資源のことと考えることができます。「等」の具体的なところとしては、家族、親戚、友人、ボランティア、民生委員、保健師、近所の世話好きなおばさん、コンビニエンスストア、ドラッグストア、レンタルショップ、学校、郵便局、銀行、病院などが挙げられます。その方の

生活している地域の中にどのような社会資源があるのかをよく把握すること、その社会資源をどのように活用していくのか、どう活用すればいいのか、その生活にとつて助けとなるのかといったことを考えること、近くになければどうしたら作り出していけるのかといったことを創造していくことも相談支援には求められていることかと思ひます。例えば、通勤で毎日必ず通る道中に八百屋さんがあるとしたら、その人にとっては見守り支援の一つになり得ると考えることもできます。

障害福祉サービスを導入することばかりに気をとられることなく、「等」の部分柔軟に幅広く考えていくこと、創造していくことを忘れずに大切にしながら、今後も相談支援に努めていきたいと思つております。皆さんも自分の生活の中で（または我が子にとつても）よいかと思ひますが、身のまわりにある「等」の部分について考えてみていただけたらと思ひます。その中で「こんなものも活用できるのではないか」、「こういう社会資源があったらいいな、助かるな」といった発想が思いつきましたら、凝り固まり

やすい傾向のある当相談支援事業所
までお知らせいただけるとありがたい
です。

皆様方には今年も大変お世話にな
り、有難うございました。至らないと
ころも多々あったかと思われませんが、
引き続き皆さんにとつて相談しやす
い事業所を目指して取り組んでいき
たいと思っておりますので、今後共よ
ろしくお願い申し上げます。どうぞ
よいお年をお迎えください。

すたーどだより

児童発達支援事業所すたーと 管理責任者 引田紘介

寒さも一段と厳しくなつてまいりま
したが、皆さまいかがお過ごしでしよ
うか？「児童発達支援すたーと」に
通う子どもたちは、寒さに負けず毎
日元気に過ごしております。

さて、筑峯学園の「児童発達支援す
たーと」は、今年の7月1日に無事
開所を迎える事が出来ました。なか
な利用者さんが集まらず、営業日
であつても子どもたちがいない日が続
きました。9月頃より毎日子ども
たちが通所し、元気な声が聞こえる
ようになり嬉しく思っている所です。
また、11月には、公益財団法人 み
ずほ福祉助成財団様より、日産キャ
ラバンの幼児バス(大人2人・小人12
人乗り)を贈呈して頂きました。日々
の送迎や遠足等で活用させて頂き、
大切に長く使わせて頂きたいと思ひ
ます。この場をお借りして、御礼申し
上げます。

児童発達支援の活動内容を少し紹
介させて頂けたらと思います。10月
にはさつまいも掘りをしました。7月
開所という事で、今年は事前に職員
が植えたさつまいもの苗が大きく育

ち、児童施設の児童・職員の協力のも
と、無事さつまいも掘りを行なう事
が出来ました。収穫したさつまいもは、
子どもたちと一緒にスイートポテト
を作りました。子どもたちと一緒に
掘り、作り、食べたスイートポテトは
格別の味でした。また、筑西市にある
県西総合公園にも、初めての遠足に
出掛けました。なかなか遊ぶ事が出
来ない大きな遊具に大興奮でした。
11月には、収穫祭にも事業所として
初めて参加しました。今年も、利用
者さんが少なかった為、午後のステー
ジ発表は見学のみでしたが、来年は
「すたーと」の子どもたちと一緒に何
かしらの発表を皆さんの前でお見せ

出来たらな・・と思つています。12月
には、クリスマス会・もちつき(児童施
設と合同)を予定しています。

幼児期は、四季折々の自然に触れ
たり、集団活動の中でたくさんの人
と交流し、色々な経験・体験をする
中で内面が豊かになり成長に繋がつ
ていくものかと思ひます。自分自身も
そうですが、やつてみて分かる・感じ
る事はたくさんあります。今後も、
子どもたちに出来る限り多くの経
験・体験を提供できるよう、イベント
の計画をしていきたいと思つています。
職員も、始めたばかりの事業ですの
で、手探りの状況ではありますが、
日々の生活の中で子どもたちと一緒
に学び、成長し合えたらなと思つてお
ります。今年もお世話になりました。
皆さま、良いお年をお迎えください。
来年もどうぞよろしくお願ひ致しま
す。